

令和２年度第１回神戸市の国民健康保険事業の運営に関する協議会

1. 日 時 令和２年８月２１日（金）午後１時３０分～午後２時２６分

2. 場 所 市役所１号館２７階 委員会室

3. 出席委員 神戸市の国民健康保険事業の運営に関する協議会委員

（敬称略 ２３名中２０名出席）

公益代表 植中、高瀬、足立、上村、中田、奥原、
西網

保険医・保険薬剤師代表 村岡、中村、安井、西尾、伊藤

被保険者代表 中島、高、玉田、吉澤、井上、高田、
村木

被用者保険等保険者代表 多田

神戸市（事務局） 森下福祉局長、上田福祉局副局長、
増田国保年金医療課長、
坂保健事業担当課長

I 令和元年度 神戸市国民健康保険事業について

●事務局 資料説明

（質問等）

○委員

14ページのS I Bについて、抑制率が32.9%と目標値を大きく下回っているが、結局うまくいかなかったという結論でいいのか。

●事務局

目標値は80%で、達成率が32.9%ということで、この部分については失敗しているということになるかと思う。

○委員

13ページ、ウの特定保健指導の対象と見込まれる者が、30年度が700何名で、元年度が2,100名と大きく上回っているがどうしてなのか。

●事務局

30年度から運用の見直しがあり、見込まれる者に対して指導は行ってはいるが、会場の調整等、集団健診実施機関にやっていただくための調整が遅れたため、数が少なくなっている。

○委員

「対象と見込まれる者」というのは、実際にされた方ではなくて、対象の方であり、それは要するに腹囲とかだと思っただけだが、その要件が変わったから、これだけ対象者が増えたということか。

●事務局

そうではなく、対象と見込まれる方は、まず、健診会場で、血液検査の結果を待たずして腹囲、体重等でやる。この分については拠点会場でやっているが、例えば、保健指導をじっくり時間をかけてするのであれば、その会場内での面接場所の確保等の準備が必要であり、30年度はその調整に時間がかかった。元年度は、30年度のスキームにより4月から安定的に実施できたため、件数が多くなったと思っている。

○委員

「MY CONDITION KOBE」について、今、市民の方、何パーセントぐらいがダウンロードされておられるのか。

●事務局

パーセンテージまでは出していないが、この8月17日現在で登録者数が5,520名ということで、当初、昨年度2万人と言っていたが、足踏み状態を続けている状況である。

○委員

市役所の職員の方は、皆さん、ダウンロードされているのか。

●事務局

市の共済組合でもダウンロードしてくださいと言われていたが、必ずしも全員がやっているとは思えない状況である。

○委員

16ページの(6)のフレイルチェックの実施で、30年度と元年度では大分人数が減っているが、広報がうまくいかなかったのか、どういう理由があるのか。

●事務局

国保の対象者の方全員に個別で通知をしているので、必ずしも広報がうまくいっていないとは考えていない。ただ、特定健診の拠点会場では、特定健診と同時にやっているの、そ

のとき声かけをしても、「今日は、いいです」と言われるパターンもあると伺っている。

またコロナの影響でできなかったというのものもあるかと思う。ただ、薬局では、予約により実施されているところが多いと聞いているので、状況はいろいろと薬剤師会に伺いたいと思っている。

○委員

フレイルチェックについて、薬局がやっているのは、データをとるためで、9項目あって、その項目を一つずつこなしていくので、普通のフレイルのチェックという、簡単な運動のものをやるだけであれば、いろいろな会場でできるが、薬局では、アンケートから全部とって、データとしてとっている。

実際65歳の方たちが直接来ても、他の会場ではやっているが、自分の近くの薬局に行ってくださいというようなやり方をしているので、その会場ではやっていない。

その中でやって、結局、65歳の方とかはフレイルに余り興味がない。大体70歳の方とかが来られてやっているが、これは人数に入らない。このデータをとるためには65歳でやっているの、その数が少ない。元気な人は、フレイルというのはいらない。

たまたま病気で来られている方に、きちんと口頭で説明すると、大体5分か10分ぐらいかかるが、やってくれている人は多い。だから、少しずつ増えているという程度のもので、それ以外にはできない。だから、一般にやっているフレイルチェックとは全然違う。咀嚼や、運動、いろいろなアンケート等、その項目を全部合わせてやっているの、老人会や東大の飯島先生のやり方とも全然違う。

○委員

保険料の収納率で、コロナの影響が多少なりともあったというふうなところがあったが、それ以外に、例えば特定健診や特定保健指導の実施率に対して、保健師さんがやるにあたって、コロナやほかの業務が増えて、特定健診、特定保健指導に影響を与えたとか、そのような影響度合いみたいなものがわかれば、教えていただきたい。

●事務局

令和元年度に関しては、コロナの影響で健診、保健事業を中止したのが、実際3月になってからであり、2月までは通常どおり行っていた。そのため、影響がまったくないということはないと思うが、1カ月程度である。

II 新型コロナウイルス感染症への対応について

●事務局 資料説明

(質問等)

○委員

傷病手当金はどれぐらいの方が申請されたのか。

●事務局

現在のところ、4件ほど申請をいただき、実績額としては合計60万円ほどである。

○委員

4件というのは、この期間、1月から今までということか。

●事務局

いま現在の申請状況、支払い実績である。

○委員

保険料の減免、コロナに関する申請もあるか。

●事務局

7月末で概ね3,000件ほどご申請をいただいている。